支援者マニュアル作成の際にいただいたご意見

平成３０年４月

支援者向けマニュアル“障害者と避難所で過ごすために・・・～あなたの力が必要です～”作成にあたり、障害当事者団体の皆様から多くのご意見をいただきました。スペースの関係でマニュアルに載せることが出来なかったご意見について、掲載させていただきます。

【視覚障害】

・一人で行動できない人が多い。
・トイレ等の場所の理解ができない。1回案内してくれたからと言ってわかるものでもない。抽象的な言い方でなく、詳細に伝えて欲しい。特定できるような言い方をしてほしい（そっち、こっち⇒右、左）。
・白杖のかわりのものがあるといい。持って逃げられるわけではない。（脇の下、130～140㎝くらい）
・文字の情報が入りにくい。わからない。
・情報は言葉で伝えて欲しい。
・誘導する時、前がみえないのに腰のあたりを持って押されるのは、とても怖い。介護ではなく、介助、誘導と考えてほしい。
・同じ障害でまとまった方が支援する側もお互いに負担が少ない。
・ボランティア、誘導できる人を確保してほしい。
・障害があることを一目でわかるといい。団体でも帽子やベスト等の意見がでている。
・地域の人達と普段から関わりを持つ事を心掛けておく。同じ避難所に行く確率が高いし、相手も声を掛けやすいと思う。
・視覚障害でも　視野狭窄、弱視、全盲等、人によって違うことをわかってほしい。

【聴覚障害】

避難所にテレビがあっても聴こえないので、ＣＳ放送アイドラゴンという聴覚障害者向けのアダプターを設置してもらいたい。

【肢体不自由、内部障害】

・内部障害に限っては、見た目での判断が付きづらいことから障害の配慮がなされないことが多い。
・内部障害と一言にいっても、各々に配慮が異なっている為、注意を示しにくい。
・内部障害の方の中には透析や呼吸器系等、定期的に治療を受けたり医療機器が必要な場合、避難所での生活は考えにくく、避難拠点は病院になると思われる。どこにどのように行くべきなのか。病院でも災害時等のマニュアルは示してあると思う。
・要援護者登録の存在自体が公になっていないように感じる。また、障害者の中には、障害を公にしたくないため、援護者登録等を利用しない方もいる。
・最近は、家族の支援も難しい、単身の方が多くなっている。その際、特に肢体不自由な方（状態の程度にもよるが）は、まず避難所へたどりつける術がない。
・食糧支援を受ける際には、避難所で登録をしないと受けることができないが、避難所へ行く事が難しい

と食糧支援さえ受ける資格がもらえない。
・障害の有無に限らず、実際災害にあった際にはまず自分が動ける状態か確認してから次の行動に移せることを想定すると、自宅で孤立した場合の捜索までには時間がかかるのではないか。
・若い世代は広報等も見ず、避難所さえ知らない場合が多い。
・仮に避難所へたどり着けたとしても障害者への配慮は厳しいと感じる。
・災害時マニュアル等は各団体であると思うが、ヘルプカードや支援マニュアルを作ろうという試みは良いと思う。
・見た目から支援が必要だと感じるため、その場にいれば支援の手は差し伸べてくれると思われる。
・車椅子の操作等、基本的な事は分かるよう記載してほしい。
・ペースメーカーを入れている方は携帯電話に注意が必要である。そもそも避難所では不特定多数の方がいるため、携帯電話の利用には配慮が必要。携帯電話が利用できる場所を限定したり、ポスター等で携帯電話の使用を控えるよう伝えてほしい。
・呼吸器系の方には空気清浄器の設置が有効。
・災害が起きた際は障害の有無に関わらず、誰しもが被災者となるため、即座の支援は厳しい。ましてや被災当日は自分の身の安全と活動可能な身体状態を確認したのち、家族の安全の確認、次に隣近所の様子を確認、と順序を追って確認をすると思うが、自分が動けない状況だとどうにもならない。そして、肢体不自由の方、特に車椅子の方は、避難所へ行くまでができない可能性が高い。各避難所への役所からの派遣も数日経過後と予測されるため、単身者等の孤立した方の捜索は難航すると思われる。緊急時はそうした現状であるであろう事を踏まえて、各団体会員には各自で考えられるよう、随時声掛けは行っている。しかし、伝えていてもご本人が考えようとしない場合もある。こうして安易に予想ができる状況を改善して行けるよう、行政には今後も意見を伝えていくべきである。

【知的障害・発達障害】
・「怖いんだよね」「嫌だよね」等のマイナス的なイメージにつながる言葉は使わないでほしい。怖いと感じていなくてもその言葉に反応してしまいパニックにつながることもある。「良かったね」「大丈夫だよ」「平気だからね」等の前向きな言葉がけをお願いしたい。
・慣れない場所に見知らぬ人が多くいる場で視覚的に遮断できるような、ついたて･ダンボール･カーテン･バスタオル等で仕切りを作ってあげてもらいたい。
・強い抵抗の中には引っ掻いたり噛み付いたりする方もいることをわかってもらいたい。
・体育館などの避難所では観覧席やステージ、演台等様々な道具が置かれていることが予想されるので多動の方は目が離せない状態となってしまうので、一緒に支援してくれる方がいると助かる。
・医療トリアージのように、行政関係者、知的、身体、高齢者、視覚、聴覚、等々得意分野ごとにバンダナのようなもので、この障害なら支援できるというような目印を支援者にも示してもらえると、託すことができるのでありがたい（親一人ではトイレにも行けないことになる）。また、保護責任者とはぐれた障害者を見かけたときに託せる人がわかると良いと思う。
・イエローカードとかレッドカードみたいな、助けてほしいことを訴えることができるようなカードを準備してくれると利用できる方がいると思う。

【高次脳機能障害】

・身体に麻痺がある方もいるが、一見して障害とわからない方もいる。
・記憶障害があり、アナウンスされたことをすぐに忘れてしまう。
・何度も同じことを聞いてくる。
・周りを見て一緒の行動ができない。
・言われている意味がわからない。
・自分のことを訴えることが苦手。
・一度に複数の指示を受けても混乱してしまう。
・伝えることを文字にしていつも見えるようにしてほしい。
・近くの人がメモを渡すなどの配慮が必要。
・メモは具体的に書いてもらいたい。できれば絵や図を使って目で見てわかるようにしてほしい。
・メモの支持も一つひとつ書いてもらいたい。
・行動障害がある方もおり、イライラしたりウロウロしたりパニックになってしまうことがある。

【難病】

・個別性が高く人によって支援してほしい内容が違う。→まず本人に聞くことが大事。
・家から出られず避難所に行けない方がいるので、家と避難所との連絡係を作ってもらいたい。
・避難所に医師を配置してもらいたい。
・ご本人たちへの啓発（意識付け）も大事。
　→日頃から外に出る練習をしてもらう。
　→家で１週間ぐらい過ごせるように普段から備蓄の食糧や薬等の準備をしていてもらう。
　→停電したときの対策を考えておく（予備のバッテリー等）。
　→家を丈夫にしておく。